若江校区福祉委員会

Ⅰ．地域の概況

校区人口	11,844人	世帯数	5,584世帯	65歳以上人口	3,188人	高齢化率	26.9%
自治会数 7	若江東・若江第２東・若江西・若江南・若江中・若江北・若江西新町						

（参考：市統計課データ）

Ⅱ．組織・運営体制

（令和5年12月31日現在）

福祉委員数	55人
構成団体/個人	自治会　民生委員児童委員　防犯委員　青少年指導員　少年補導員　老人会　地区推進委員　スポーツ推進委員　宮司　遺族会　ネットワーク推進委員　校長　園長　ほか
主な活動拠点	若江公民分館・若江西新町自治会館　ほか

Ⅲ．小地域ネットワーク活動

◇個別援助活動

見守り・声かけなど	実施している

◇グループ援助

活動名	名称	日時（定例日）	場所	対象	費用	備考
いきいきサロン活動	食事会	毎月1回	若江公民分館	ひとり暮らし高齢者	無料	８月・1月を除く
いきいきサロン活動	食事会	年4回	若江西新町自治会館	ひとり暮らし高齢者	無料	
介護予防事業		年間6回	若江公民分館	ひとり暮らし高齢者	無料	

◇その他の活動

各種調査（高齢者・金婚ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ婚対象夫婦・交通遺児など）　ほか

Ⅳ．敬老事業

祝品の配布をしている

Ⅴ．歳末たすけあい事業

食事会を実施している

Ⅵ．校区の特徴

若江校区

若江校区は、若江岩田駅南側で八尾市と隣接しています。昔は、河内国若江郡と呼ばれ南北朝時代から安土桃山時代の約２００年間にわたっての城下町であり、若江鏡神社は雷神を祭る古い社があり、お祭りの際には大変賑わいも見せています。

最近では、田畑も減り、マンションや戸建ての住宅も増え、単身世代、少子高齢化が徐々に進んできているなか、若江校区福祉委員会としては、繋がりの再構築、誰もが安心して住み続けられるまちづくりを目指して小地域ネットワーク活動に取り組んでいます。若江地区の範囲が広くて活動は2か所に分かれて活動しています。

若江校区では、「誰もが安心して住み続けられる町」を目指しています。

若江公民分館の様子

毎月若江校区では「ネット食事会」と言って、独り暮らし高齢者を対象に開催。委員長の挨拶から始まります。参加者の皆さんにも好評で、楽しみに来て下さっています。お弁当は季節のものを取り入れるなどいつも工夫しています。

※現在はお弁当のお持ち帰り方式で実施しています。

当日の様子

毎回、初めに委員長より、一言コロナの状況や健康についてお話しをしています。

持ち帰りの様子

クリスマス会で、役員はサンタの衣装を着て皆さんと歌を歌い、手遊びをして楽しい時間を過ごします。

若江西新町自治会館の様子

食事会を楽しまれて、その後は包括からの体操や脳トレを楽しまれています。

体操後はお弁当をお持ち帰り頂き、自宅で食べてもらいます。

世代間交流の様子

若江小学校では、毎年５年生を対象に「高齢者疑似体験」を実施。校区福祉委員長はじめ地域のネットワーク推進委員・自治会・民生委員児童委員・地域包括アンパス東大阪のご協力をいただいています。最初に委員長より若いころの**体験の話しをしてもらいスタートします。**

手足がまがりづらい体験

つかみづらい体験

視野狭窄の体験

聞こえづらい体験

白内障体験

介護予防事業の様子

東大阪市中保健センターに来ていただき、体操の指導。地域包括支援センターより介護予防体操や脳トレ、市立東大阪医療センターより感染症のお話などを開催しています。